

## 4 国際的なイベントの安定運営への貢献

### 4-1. 大会等の安定運営に必要な通信サービスやサイバーセキュリティ対応(ラグビーワールドカップ、東京五輪、大阪・関西万博)

NTTグループは、国際的な大規模イベントにおいても、通信インフラやサイバーセキュリティの分野で重要な役割を担っている。ラグビーワールドカップや東京五輪、大阪・関西万博といったグローバルイベントにおいて、世界中から集まる膨大な観客や関係者に対し、安全かつ安定した通信サービスの提供を行ってきた。本節では、これらのイベントにおけるNTTグループの具体的な取り組みと貢献事例について詳述する。

#### (1) ラグビーワールドカップ2019 日本大会

2019年に日本で初めて開催されたラグビーワールドカップでは、全国12会場で45試合が行われた。世界各国の選手や観客が集い、試合の迫力だけでなく日本の魅力も体感できる機会となった。この大会を支えたのがNTTの通信サービスとサイバーセキュリティであり、ICT技術による安定した大会運営が行われた。

ラグビーワールドカップの開幕に先立って、NTTドコモは2019年3月にはJリーグやBリーグの会場でも段階的に5Gを使ったデモを実施していた。他社も5Gの研究を進めていた中で、NTTドコモは2019年7月26日に「5Gプレサービス」提供開始の正式発表を行った。プレサービスは9月20日の大会の開催に合わせて開始され、大会では実運用に近い形で観戦支援サービスが提供された。

大会期間中は、超高速通信による4Kや8Kといった超高精細映像をリアルタイムで伝送することで、試合中に撮影されたハイライト映像が即座に会場外へ配信されるなど、観客はスタジアムでの熱気を体感しながら別視点でフィールドを覗き見るといった観戦体験を得ることができた。大会開催地域では高速かつ大容量のネットワークが整えられ、会場内外でのストリーミングや情報発信がスムーズに行えるようになった。

VRを使ったパブリックビューイングでは、好みの視点を切り替えられるマルチアングル映像配信によって、従来にはない迫力ある映像視聴が実現された。さらに、AR技術

図表2-4-1 ▶マルチアングル視聴 イメージ



NTTドコモ「(お知らせ)「ラグビーワールドカップ2019TM 日本大会」で5Gプレサービスを提供」(2019年7月26日)

を用いて、選手の走行距離やタックル数などのデータを瞬時に表示させることで、戦術の分析や選手の動きを深く理解できる観戦環境が提供された(図表2-4-1)。

大会期間中、NTTグループはAIを活用したリアルタイム監視システムを構築し、セキュリティ対策の面でも貢献した。国際的なスポーツイベントはサイバー攻撃の標的になりやすいが、フィッシングや不正アクセスが検知され次第、即座に脅威の封じ込めが行われた。これにより選手や観客の個人情報が守られ、試合映像やスポンサー広告を扱うデジタルサイネージへの不正侵入も未然に防がれた。その結果、大会運営におけるトラブルが最小限に抑えられ、快適な観戦体験と安定した運営が実現された。

このラグビーワールドカップでの5Gプレサービスとセキュリティ対策の成功は、東京五輪2020(2021年)や大阪・関西万博(2025年)をはじめとする国際イベントに向けた貴重なノウハウとして引き継がれた。大量のアクセスにも耐えられる安定したネットワークとリアルタイムで脅威を検知・阻止する技術は、スポーツを支える通信基盤としての活用にとどまらず、医療や教育への応用を視野に入れたソリューション開発に取り入れられ、地域社会においても活用の余地が広がっている。「ラグビーワールドカップ2019日本大会」はスポーツの祭典であると同時に、通信技術の発展を後押しする転機であった。

#### (2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

2021年7月23日から9月5日にかけて開催された「東京